

平成 29 年度 第 1 回 羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時： 平成 29 年 7 月 13 日(木) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 45 分

場 所： LIC はびきの 教育研究所会議室

出席者：(委員) 上野委員、小澤委員、岸下委員、齊藤委員、嶋田委員、菅谷委員、

瀬戸口委員、南野委員、山下委員、脇谷委員

(教育委員会) 高崎教育長、清水教育次長兼生涯学習室長

(事務局) 堀田課長、奥野館長、安東課長補佐、岩佐主幹、江夏主幹

欠席者： なし

傍聴者： なし

●委嘱状交付

●開会

教育長挨拶、委員紹介、事務局紹介

事務局より議事録の要録を WEB 及び中央図書館で紙ベースで公開することを報告

●議事

会長・副会長の選出

会長に岸下委員、副会長に上野委員を選出

会長あいさつ、副会長あいさつ

(教育長 公務のため退席)

議題 平成 28 年度図書館の事業活動報告について

事務局：(『平成 28 年度図書館業務活動報告書』P.1 により説明)

会長：報告についてのご意見はないか。

委員：利用の状況について、少子高齢化が進む今後を考えると、子ども読書も大事だが、①男性の利用者(40～50 代)が少ないことへの対応、②高齢化に向けての取組、を考えていかなければならない。認知症の方の図書館利用の拡充が始まっているところもある。支える家族に対する情報サービスの取組も考えられる。この点について図書館としてどう考えているのか聞きたい。

事務局：図書館でも施設・設備面では、高齢者・障害者のみならず利用者に対してバリアフリー化は進んでおり、多目的トイレやくつろぎのスペース等、ゆったり使っていただける対策をしている。

委員：図書館は、安心して使える施設でもあり居場所としての取組、認知症やそれを支える家族への情報サービスも必要となる。最近は図書館に行く「足」の問題もある。

事務局：公共施設循環バスをご利用いただければと思う。羽曳野では歩いて行ける距離で 6 館があり、予約制度もある。近くの図書館を利用いただければと思う。

委員：「3 つの基本方針」に「全市域に図書館サービスの充実を図ること」とあるが、駒ヶ谷地区は大丈夫か。

事務局：最も近いところで東部図書館になる。

委員：高齢者や認知症の方、家族や足の問題も対策は必要だが、なかなか難しい問題だと思う。

委員：恵我之荘地域には陵南の森やコロセアムがあり、図書が豊富で地域の方が行きやすい場所にある。

- 委員：高齢者が幼稚園をサポートしている。菜園での収穫や、シルバーの方たちがお手玉やおりがみなどを教えてくれる。幼稚園が開かれた場になっており、いい場を提供してもらっている。
- 駒ヶ谷小学校は司書が配置されていない唯一の小学校。手薄なうえ、公共図書館から距離も遠い。BM もなくなり他地区の子どもたちと差がある。
- 委員：駒ヶ谷小学校へは週 1 回西浦東小学校の司書が行くようになった。駒ヶ谷小学校にとってはいい一方、西浦東小学校では毎日いた司書が 1 日いなくなる。
- 委員：高齢者については、図書館をこれまで利用していない人に新しく来てもらうのにどうするかが課題だと思う。幼稚園と高齢者の交流を図書館に求めるのは少し違うような気がする。子どもへの啓発のほうがよいのではではないか。
- 委員：高齢者は「足」の問題（＝来館手段）で図書館に来ていた人も来れなくなる。
- 図書館は本を借りるだけではない。画集や写真集を見るなど「楽しむ」ということもある。
- そういうことで頭を活性化させる回想法で、大人用の紙芝居も人気だ。高齢者のおはなし会・お母さんへの子育て支援のおはなし会など、社会状況を考えて、ひとりひとりがいい人生を送る手助けをするのが図書館の役割。（図書館を利用する）習慣がない人ということではなくて、これからはライフステージに応じた図書館サービスの充実という流れがある。課題として取り組むことだと思う。
- 委員：認知症への対応は必要だと思う。ご高齢の方は足が大変になる。自分の地元で考えてみると、例えば、集会所に図書館の人が来て住民が集える場があれば活性化につながると思う。
- 小学校では司書が本の出会いを考えていろいろやってくれている。中学生も、司書がいたときはゆったりと本と出会えることで担任との関係も豊かになる。本との出会いの場が多いほど習慣になると思う。
- 男性の利用者が少ないことについて、40～50 代男性は本屋で買っているのではないかと思う。
- 委員：今の社会に対応した図書館が必要との先ほどの話だった。図書館行政ではそれをどう充実させるかが課題だと思う。
- コミセンの指定管理者が替わったことで、施設の雰囲気が少しずつ変わってきているような感じを受ける。（コミセンの）施設の中にある図書館はどうか。
- 事務局：指定管理者と図書館業務委託先職員とで協力体制をとっており、以前の状況は維持していると考えている。
- 委員：高齢者の学校図書館利用は難しいか？
- 委員：（公共）図書館と直接関係はないが、小学校では西浦東の司書が駒ヶ谷に週 1 回行くことになって西浦東の学校図書館は週 1 回閉まる。また、西浦東校区も児童の減少により 1 クラスずつになる可能性があり、駒ヶ谷のように司書がいなくなるのではないかと懸念している。
- 活動報告書では利用人数が年々減っているのでは？対策が必要ではないか。以前コミセンでは新聞を読みに来てその流れで本を借りる人がいたと思うが。
- 事務局：利用人数について、H28 年度は前年より数としては増えている。新聞について、コミセンでは現在 2 紙をとっている。（新聞を増やすよう）図書館で予算要望をしているが実現にいたっていない。
- 委員：広域で借りられているがピークから見ると減っていると思う。
- 委員：コミュニティセンターで高齢の方を見なくなった。亡くなる方が多い。以前は高齢の方で満席だったソファが今は空いている。高齢者の死亡率が上がっていることも（利用者減少の）理由ではないか。また、羽曳野市では若い人と高齢者の人数の割合が、現在が谷底と聞いているので図書館の利用も減っているのではないか。羽曳が丘では図書館を利用する中・高校生の利用が増えて

いるようだ。

委員：時代の状況に即した対応を考えないといけない。そういうきめ細かい対応をしようと思ったら職員が重要。正規職員の人数について、考えてくださっているのはわかるが喫緊の課題だ。

活動報告書に「図書館費総額」とあるが、総額には資料費も含むのか。

事務局：人件費・資料費等、すべてを含んだものです。

委員：コミセンの新聞は、指定管理者が替わってなくなったということか。

事務局：替わる前は、指定管理者がとっていた新聞 5 紙を図書館でも利用させていただいていた。指定管理者が替わった時に新聞がなくなった。対応として、図書館が日経新聞、新しい指定管理者がスポーツ紙をとることとした。

委員：古市の職員は常駐でなく中央から正職員が行っているのか。

事務局：正職員が行っているのではなく、嘱託員が交替で行っている。

委員：高齢者へのおはなし会にも行っているが、紙芝居は昔ばなし、パネルシアターは幼稚園向きでも喜んでもらえる。「うらしまたろう」の歌も歌ってもらえるし、手遊びも好評だ。ロコミでおはなし会の依頼がある。図書館での事業も紹介しているが。

中央への公共施設循環バスの足回りが悪い。帰りの便がない。運行表も考えてもらえたら。

委員：自分たちのグループでは高齢者のおはなし会の経験がない。図書館で土・日曜に子ども向けのサービス（＝おはなし会や行事）をやっているが、平日に老人向けのおはなし会など「老人サービス」も考えてはどうか。高齢者を外に出すしくみが必要だ。

教育次長：いろいろ意見をいただいた中で、図書館のあり方は時代とともに変わっていかなければならない。図書館の行事は子ども向きという印象があるが、高齢者向けのサービスについて福祉部局とも調整なりして、できないか検討したい。

図書館に来るための「足」が問題になっているという話だった。買い物なども、社会生活においての移動手段を今後市として取り組んでいかなければならないと考えた。

委員：全国の図書館を調べて比較すると、羽曳野市は業績はあげているのに正規職員が非常に少ない。利用する人が減ると予算も減るという悪循環になる。ボランティア（に協力してもらうにしても、それ）を指導する正規職員が足りていない。新採をとってもらうことが大事。今募集したら優秀な人が集まる。重要な課題なのでよろしくお願いします。

委員：子ども読書活動推進計画の進捗を毎年報告する、とあるが。

事務局：計画策定後の推進会議で、「進捗管理を図書館にお任せいただき、必要に応じて報告と相談をさせていただく」ということで委員のみなさんに承認をいただいている。毎年の集約には至っていないが、第 2 回の会議には進捗状況の報告をと考えている。

委員：検証が大事になると思う。せっかく作った計画だから次につなげないともったいない。

委員：現在、（市の）外部の人間が集まる図書館に関する場がこの協議会だけなら、この場で報告してもらおうことでどうか。

事務局：図書館協議会で報告させていただきます。

会長：本日はこれで閉会します。

●閉会